

第1回 阿賀野市男女共同参画プラン推進協議会 議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和3年10月25日（月）午後1：30～3：00

場 所：阿賀野市役所別館 3階 302会議室

出席者：【委員】小野会長、井上副会長、酒井委員、 笹川委員、三膳委員、高橋委員、渡辺委員

【市】事務局：企画財政課（大橋課長、星課長補佐、古田島係長、鈴木主任）

2 議事概要

(1) 阿賀野市男女共同参画プラン登載事業(令和2年度実績報告及び令和3年度実施計画)
について

(2) 令和3年度女性財団共催セミナーの開催について

(3) 新潟県女性のつながりサポート事業について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員 ●：市））

(1) 阿賀野市男女共同参画プラン登載事業(令和2年度実績報告及び令和3年度実施計画)
について

○業界内での対面での会議、社内でのコミュニケーション向上を目的としたイベントがなくなり、会議はZoomなどオンラインが主なものとなった。また、近年ではキャリアアップ制度や男性の育児参加、SDGsなど色々なものが企業に求められるようになっている。働き方や社員への支援といったものに重点を置いていくことがこれからは重要になる。女性活躍だけでなく、いかに働きやすい環境を整えていくかが企業の課題である。

○コロナ禍ではリモートで仕事をする機会が増えたことで、男性が家にいる時間が増えたという話を聞く。そのことで改めて家庭での役割というものが課題になっているが、男性が家にいる時間が増えたことを、例えば「育児に関わりやすくなった」というようにプラスとして考えると良い方向に発展していくのではないか。

○会議や出張がツールを使用したものになり、人と直接かかわることが少なくなったことは、メリットデメリット両方あると思っている。JAでは昨年できなかった収穫感謝祭を先日行った。イベントが少なくなっている状況もあり、参加者はとても楽しんでいた。これからは、感染防止対策を講じながら活動を再開していくことが大切だと感じている。

○学校の方でも、昨年度は部活動や大会が中止となってしまったが、今年度はすべて実

施することができた。職員研修についてもオンラインで実施しているところである。また、（パラリンピック銀メダリストの）山田美幸さんは、地域から温かく見守られ、1人の中学生として学校生活を楽しく過ごしている。男女共同参画プランには、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を基本目標に掲げているが、大切なことである。

○社内では、2名の女性職員が育児休暇を終えるが、双方ともその後は夫が育児休暇を取得すると話していたことから、男性の育児休暇の取得が進んでいると感じた。また、赤い羽根共同募金やフードドライブで集まったものをひとり親世帯に配布することを、感染防止対策を講じて行うこととしている。コロナ禍ではあるが、なんでも中止してはダメだし、今後は感染防止対策を講じて実施することが当たり前になっていくと思う。

○仕事を多く抱えていると、従業員に休めと言っても責任感などから取りづらい様子である。子育て世代の社員が入ってきた時にそういう体制ができていないと良くないため、社員が休暇を取得しやすくするためのバックアップ体制づくりが必要である。

○この自然環境の素晴らしい地域で育てた子どもたちが都会に流出してしまっている。人口減少は問題となっているが、このコロナ禍によって仕事も学校もリモートの導入が進んでいる。大人になっても地元に残れる環境づくりを考えなければならぬ。

(2) 令和3年度女性財団共催セミナーの開催について

→ 事務局よりセミナーについて説明し、質疑なく承認された。

(3) 新潟県女性のつながりサポート事業について

○相談先を紹介するパンフレットはどこに配置しているのか。

●社会福祉課、企画財政課の窓口に設置している。(企画財政課主任)

○ひとり親へは配布したのか。

●今回の県事業の趣旨は、生理用品の配布を通じて支援が必要な人を掘り起こすことであるため、ひとり親世帯など特定の人に一律に配布することはできないとされている。
(企画財政課主任)

(4) その他

○今は学校でジェンダーなどについて教育をしてくれるので、子どもから教えてもらう

ことが多い。

○性の教育は市健康推進課の協力により、中学2年生を中心に行っている。小学校についても、6年生を対象に希望する学校で実施している。昔は男女別に実施していたが、今は男女一緒に行っている。また、京ヶ瀬中学校の校則では、女子の制服について、スラックスでも良いとしており、実際に1名の女子生徒がスラックスを着用している。市内では、まだ校則にスラックスについての内容がない中学校もあるため、校則の改正に取り組む予定である。

○障がい者に対する認識や考え方もだいぶ変わってきたと思う。身体に障害がある人は、身体は確かに不自由かもしれないが、それ以外は他の人と変わらないということを今回のパラリンピックで改めて感じた。

○本日の会議では男女だけでなく障害や貧困の話もあったが、そういった差別感をなくし、ひとりの人間として明るく生活をおくことができる社会にすることが大切である。